

令和4年度 兵庫県立北条高等学校 学校評価

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	評価A	評価B	評価C	評価D	学校評価	部署	令和4年度の反省と改善策（自己分析）	関係者評価	学校関係者評価（外部分析）
学校運営	勤務時間の適正化	1 職員の勤務時間の適正化	毎週月曜日を「定時退勤日」「ノー会議デー」とし、平日1回、週休1回1回の「ノー会議デー」を実施し、職員の勤務時間の適正化を図る。	「定時退勤日」に75%以上の職員が定時退勤に努め、「ノー会議デー」が実施できた。部活動も「ノー会議デー」の完全実施がほぼできた。	「定時退勤日」に50%以上の職員が定時退勤に努め、「ノー会議デー」がほぼ実施できた。部活動も「ノー会議デー」も半分以上実施できた。	「定時退勤日」に30%以上の職員が定時退勤に努め、「ノー会議デー」がだいたい実施できた。部活動も「ノー会議デー」の完全実施は半分以上実施できなかった。	「定時退勤日」の職員の定時退勤が30%未満で、「ノー会議デー」が実施できないことも多かった。職員の清掃分も「ノー会議デー」の実施がほぼできなかった。	B	管理職	月曜日を「定時退勤日」「ノー会議デー」と定めているが、今年度もコロナの影響が続いた。定時退勤については、行事の復活が進んだため昨年度並みとなった。ノー会議デーについては、この数年で新型コロナウイルス感染症拡大防止のため部活動の制限が周知され、ほぼ達成できている。	B	・勤務時間の適正化が職員の業務活性化につながる取組になることを期待します。 ・コロナ対応などレギュラーが続くが、継続的な取組が求められる。
		2 会議の内容の精選と時間厳守	会議には事前に資料を配布し、要点を絞って提案し、緊急を要する場合を除いて、原則1時間以内を守る。	資料を事前に配布するとともに内容を精選し、会議時間1時間以内が9割以上守られた。	資料の事前配布をほぼ実施し、内容もほぼ精選し、会議時間1時間以内が7割以上守られた。	資料の事前配布を半分以上実施でき、会議時間1時間以内が5割以上守られた。	資料の事前配布は半分以上であり、会議時間5割未満しかなかった。	B	管理職	コロナ前並みの行事対応になりつつある中で、行事の内容等を検討する必要があったが、会議時間はほぼ1時間以内を守られた。職員朝礼では、共有フォルダに連絡事項を事前に入力することが定着し、学年打ち合わせ時間も確保され、効率的に朝礼を運営できた。	B	・職員数が減少する中で行事や業務の精選はどの職場でも求められています。ICT活用も含めた会議の効率化で先生方の負担軽減に努めてもらいたい。
		3 教材等の整理整頓	整理整頓が必要な箇所をピックアップし、種類や使用頻度別に分類・整理を実施する。職員の清掃分を徹底し、コピー用紙の整理・再利用を促進する。	整理整頓が十分に行われておりコピー用紙の整理・再利用も完全に実施できた。職員の清掃分も完全に実施できた。	整理整頓がほぼ行われておりコピー用紙の整理・再利用もほぼ実施できた。職員の清掃分もほぼ実施できた。	整理整頓が行われているのが半数程度であり、コピー用紙の整理・再利用も一部不十分であった。職員の清掃分も半数程度は実施できなかった。	C	管理職	コピー用紙等の整理・再利用で、リサイクルボックスを設置しており、紙ベースの不要な資料をこまめに処分する習慣ができている。ただ、リサイクルボックスの処分の際、必要な書類箱との区別が曖昧であったため、区別を徹底する必要がある。	B	・必要な書類の分類については徹底化の必要がある。 ・生徒の学習環境に関わることでもあるため、継続して取り組んで欲しい。	
学校運営	地域に信頼される学校づくり	4 家庭や地域への情報発信	学校・家庭・地域との相互関係を深め、中学校・PTA・同窓会・後援会と密接に関わり地域に信頼される学校づくりに邁進する。そのために学校案内・ホームページを充実させ、学校の教育活動を保護者や地域の人々に積極的に広報していく。また、各部、各学年と連携をとり、各行事や式典を意義深いものとする。	ホームページの更新がこまめにできた。学校案内（パンフレット）を更新し、生徒・保護者、市内等中学生に配布し情報発信できた。	ホームページの更新があまりできなかった。学校案内（パンフレット）を更新し、生徒・保護者、市内等中学生に配布し情報発信できた。	ホームページの更新があまりできなかった。学校案内（パンフレット）を更新し、生徒・保護者、市内等中学生に配布し情報発信できなかった。	ホームページ、学校案内（パンフレット）の更新ができず、生徒・保護者、市内等中学生への発信が不十分であった。	B	総務	学校案内、HPの充実は今年度の目標は達成された。新型コロナウイルス禍から、従来の行事が少しずつもどってきた。オープンハイスクールについては、感染防止策をとった上で、2回とも実施でき、中学校への情報発信ができた。その他、多くの行事は縮小となりながらも、実施できたのは本校の全職員の協働意識のたまものである。地域に信頼される学校として、次年度は行事、式典、周年行四等を全校一同に会した場で実施していきたい。	B	・webサイトは作るよりも更新し続けることが大変ですが、それが重要。スタッフの負担にならない範囲でどのタイミングで何を更新するかプランを決めることが重要。 ・ホームページやパンフレット等を更新し、生徒・保護者に情報発信された。今後は中学生や保護者が情報取得に最も利用するSNS等を活用した情報発信を検討していきたい。 ・ホームページに部活動の公式戦等最新結果を随時掲載してほしい。
		5 地域との交流	高校生ふるさど貢献活動を実施するため、ボランティア活動への参加や関連機関との連携を図る。また、PTAと連携した行事を推進するとともに校内行事や学校安全を守る取り組みを盛り上げる。	年間延べ750人以上の生徒が活動に携わった。さらに、生徒が主体的に取り組む、内容の充実や地域との連携を深めることができた。	年間延べ500人以上750人未満の生徒が活動に携わった。	年間延べ250人以上500人未満の生徒が活動に携わった。	年間延べ250名未満の生徒しか活動に携わらなかった。	A	生徒指導	年間延べ1,000人以上の生徒が活動に携わった。新型コロナウイルスの影響が軽減し、地域で活発な活動が行われるようになってきた。募集のあるボランティアには生徒が積極的に希望する姿が見られ、地域に貢献できる生徒の育成や生徒の人格を伸ばす取組になっていると確信を持っている点もある。しかし、一方では生徒・教師の負担になっている点もある。今後も地域に根ざした活動に積極的に取り組むが、より健全で適切な運営ができるよう工夫していきたい。	A	・コロナ禍の落ち着きと同時にスタッフの熱心な取組により充実したものとなっている。 ・年間延べ1,000人以上の生徒がボランティア活動に携わり地域貢献を実施したことにより、地域との連携がしっかりと深められている。 ・北高の強みであるボランティア活動を通して人間力向上を追求してほしい。
学校運営	教員の資質向上	6 教員の授業力向上	授業研究の機会を増やし、「主体的・対話的で深い学び」と「言語活動」の研究を通して教員の授業力の向上を図る。	年間3回（各学期に1回）の授業研究の機会を設け、言語活動についての研究を進め、教員の授業力向上を図ることができた。	年間2回の授業研究の機会を設け、言語活動についての研究を進め、教員の授業力向上を図ることができた。	年間1回の授業研究の機会を設け、言語活動についての研究を進め、教員の授業力向上を図ることができた。	授業研究の機会を設けることができなかった。	A	教務	昨年度と同様に1学期に「授業見学週間」、2学期に「公開研究授業」、3学期に「校内研究授業」を実施し、言語活動の充実をテーマとした授業研究を推進した。言語活動をテーマとして満3年となり、これまでの取組を総括し、全教員に共有することができた。来年度は新しいグランドデザインの下で、これまでの取組を踏まえながらテーマを設定したい。	B	・全教員にグランドデザインを配付し、情報の共有及び授業の工夫を実施された。
		7 基本的生活習慣の確立	8時20分登校の遅刻件数を減少させる。（昨年度475件）また、挨拶の励行を促進するとともに、毎月の頭髪服装点検を身なりを正す。	年間遅刻件数は210件未満であり、登下校時やすれ違う時にはしっかりと挨拶ができた。また、時と場合に応じて身なりを正すことができた。	年間遅刻件数は211件以上420件未満であり、登下校時やすれ違う時にはしっかりと挨拶ができた。また、制服の着崩しがないよう注意喚起に努め、校内では身なりを正すことができた。	年間遅刻件数は421件以上630件未満であり、挨拶の声は少なかつた。頭髪服装点検では再点検者が増加傾向を示した。	年間遅刻件数は631件以上であり、改善がみられなかった。そして、挨拶が聞かれず、制服の着崩しも目立った。	D	生徒指導	令和元年度の遅刻件数840件を基準値に設定し、目標を数値化して、取組を継続している。令和4年度の累計は3月1日時点で810件を超えており、過去最大値を記録する可能性がある。今後も根本的な登校指導の在り方の見直しや、生徒の安全を守るための啓発運動に注力していく。また、日々の声かけの強化や遅刻回数が多い生徒への面談も強化し、情報分析して全校集会で公表できるよう努める。遅刻件数が増加した要因は「精神不調者の増加」を省くと大半が意図行為にあたるので、次年度はより力強く指導に取り組みながら、保護者への協力もお願いしていきたい。	C	・遅刻件数により思わしくない結果が出ている。今後の改善に期待。 ・遅刻件数が過去最大となる可能性があることは今後の課題としてもらいたい。 ・遅刻件数が過去と聞いて非常に残念。今後も続くようならPTAとしても何か対策を考えたい。
学校運営	生徒指導	8 規定及び内規の整理と共通理解	学校の実情を考慮しながら未来志向で整理を進める。	生徒指導規定及び内規を現状に即したかたちに改訂・修正することができた。	見直した内容を部会等で検討するまでにとどまった。	部内で現行規定及び内規を整理した。	整理することができなかった。	A	生徒指導	今年度も規定や内規の改訂・修正をすることができた。次年度以降は生徒・PTAにも意見を聞く機会を設定したいと考えている。また、時代の変化の流れが激しく、近年は校則や指導のあり方についての裁判事例が増えている。今後の見直しについては、法的根拠や理由を説明できるよう努め、より良い学校規則やより適切な指導ができるよう工夫したい。そして、時代の流れや学校の実情に合わせて柔軟に校則を見直し検討していくことは大切だが、生徒1人1人の考え方や態度もより良くなっていく未来を創造したい。	A	・時代の変化をふまえて規定や内規の改訂・修正を行い、適切な指導に努められた。 ・生徒評価が悪化している項目について、生徒意見が反映されるよう改善を望む。
		9 学校安全の向上	交通安全の遵守やマナーの向上をはじめ、校内施設・設備の安全点検や定期的な清掃などに努める。また、専門機関（加西警察や加西市補導委員会等）との連携も積極的にとり、情報交換を行う。	日々の指導や講演会等の行事を見直し、生徒の状況把握や対応が適切にできた。	学校安全に係る情報を全職員へ周知し、共通理解を図りながら、各部・学年と連携した対応ができた。	学校安全に係る情報を全職員に周知するまでにとどまった。	学校安全に係る事案に適切な対応できなかった。	A	生徒指導	今年度の学校管理下におけるいじめの認知件数は2件、自転車交通事故は3件、校内での器物破損は2件、授業や部活動等におけるケガは1年生に多く発生した。近年話題になることが多いスマホやSNSに関する人間関係のトラブルやいじめ、嫌がらせや悪ふざけ等にも適切な対応ができる学校となれるよう努めたい。今後はより支援を必要とする生徒の増加が予測できるので、学校に安心して登校し、学習や部活動等に励める環境づくりに注力していく。	A	・ひどいじめ事案になる前に、確実に認知し予防していくことが必要であるように感じられる。 ・学校におけるいじめや自転車事故等をしっかりと把握し、適切な指導の努められた。 ・人間創造コースは3年間同じメンバーのため、いじめ防止等、先生方には注意を払ってもらいたい。
		10 職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	インターンシップ、大学見学会、職場見学会などを充実させ、社会の中での自己の役割を考えさせる中で職業観・勤労観を育成し、進路意識を向上させる。	インターンシップ、職場見学会等を希望する生徒全員が参加できた。大学見学会、講演会、キャリアガイダンス等を企画し、進路意識向上への支援に十分つながった。	インターンシップ、職場見学会等を希望する生徒のほとんどが参加できた。大学見学会、講演会、キャリアガイダンス等を企画し、進路意識向上への支援につながった。	インターンシップ、職場見学会等を実施した。大学見学会、講演会、キャリアガイダンス等を企画できなかった。	B	進路	コロナ禍の影響により大学見学会を急遽中止せざるを得ない状況であった。しかし、希望者対象の校内進路説明会やガイダンス等を実施し、志望進路に合わせた支援に努めた。インターンシップ（県庁、病院、保育所、学童等の体験）に関しては、体験場所によってはコロナの影響があったものの、多くの希望者が参加することができ、職業観や勤労観を向上させていたようである。就職希望者は、就職ガイダンスや職場見学会に参加することができ、進路実現に活かすことができたようである。	B	・コロナ禍で大学見学会を中止せざるを得ないことがあったものの、校内進路説明会の実施等、志望進路に合わせた支援に努められた。	
11 進路実現に向けたサポート体制の確立	生徒個々の進路希望に応じた補習や個別指導、進路ガイダンスを充実させ、意欲を持った生徒の学びを支援する。全教員の負担が増えているのでそれを軽減するように努力する。	全学年において、進路講演会、ガイダンス、進路面談を計画通り実施できた。また、平日補習・夏季補習等を積極的・計画的に実施し、学力支援が十分できた。個々の生徒の進路に応じた支援ができた。教師の仕事がかなり軽減することができた。	全学年において、進路講演会、ガイダンス、進路面談を実施した。また、平日補習・夏季補習等を積極的・計画的に実施した。教師の仕事がわずかに軽減することができた。	進路講演会、ガイダンス、進路面談を実施できなかった。また、平日補習・夏季補習等を積極的・計画的に実施できなかった。教師の仕事が軽減することができなかった。	C	進路	補習や進路に対する個別指導は例年どおり、もしくはそれ以上の回数を実施することができたように思える。平日補習や長期休暇中の補習等は、積極的・計画的に実施できたが、教員数が少ないため、学年団や教科担当に負担をかけているのも事実であり、実質的には教師の仕事軽減にはつながっていない。	B	・教員数が少ないにもかかわらず、例年以上の補習や個別進路指導が行われている。			

領域	評価の観点	評価項目	実践目標	評価A	評価B	評価C	評価D	学校評価	部署	令和4年度の反省と改善策（自己分析）	関係者評価	学校関係者評価（外部分析）		
教育課程	カリキュラムマネジメント	12 グランドデザインに基づく教育	「北高カリキュラム2022」（全体構想）に基づいた教育の展開を呼びかける。	年度当初にグランドデザインを全教員に配布し、生徒の資質・能力の育成を主眼とする教育を展開することを共有できた。今年度のテーマである「言語活動の充実」について、全教員で言語活動を実践することができた。	年度当初にグランドデザインを全教員に配布し、生徒の資質・能力の育成を主眼とする教育を展開することを共有できた。今年度の今年度のテーマである「言語活動の充実」について、多くの教員で言語活動を実践することができた。	年度当初にグランドデザインを全教員に配布し、生徒の資質・能力の育成を主眼とする教育を展開することを共有できた。今年度の今年度のテーマである「言語活動の充実」について、半数程度の教員で言語活動を実践することができた。	年度当初にグランドデザインを全教員に配布し、生徒の資質・能力の育成を主眼とする教育を展開することを共有できた。今年度の今年度のテーマである「言語活動の充実」について、一部の教員でしか言語活動を実践できなかった。	B	教務	全教員にグランドデザインを配布して情報の共有はできた。教員アンケートでは80%が「できた」以上（「よくできた」割合は19%）で、昨年度とほぼ同じで、依然「よくできた」割合が低いことが気になる。言語活動の充実については生徒アンケートでは33%が授業の工夫をしていると感じている（「まあそう思う」以上なら91%）。来年度は新しいグランドデザインに基づいた教育活動の展開を呼びかけていくことになるだろう。	B	・グランドデザインを策定し、高校の目指す方向性やビジョンの検討をされた。 ・北高独自の教育活動を実施することができた。		
		13 授業のPDCAサイクルの展開	シラバス・年間計画、生徒授業アンケート等を活用し、授業のPDCAサイクルを展開させる。	1学期末、2学期末に生徒授業アンケートを実施し、分析の上で授業改善について検討できた。3学期末に1年間を振り返り、年度当初に作成した年間計画を改善するとともに、改善案を次年度の担当者に引き継ぐことができた。	年間で1回の生徒授業アンケートを実施し、分析の上で授業改善について検討できた。3学期末に1年間を振り返り、年度当初に作成した年間計画を改善するとともに、改善案を次年度の担当者に引き継ぐことができた。	生徒授業アンケートを実施できなかったが、3学期末に1年間を振り返り、年度当初に作成した年間計画を改善するとともに、改善案を次年度の担当者に引き継ぐことができた。	授業のPDCAサイクルを展開することができなかった。	B	教務	実施についてはA評価に該当するが、内容を総合してB評価とした。授業アンケートの結果を授業に良く反映できたと回答したのは19%（「できた」を含めると84%）で、昨年度からやや改善した。生徒アンケートでは17%が反映されていると感じている（「まあそう思う」以上なら78.8%）が、昨年度に比べて微減している。来年度は新しいグランドデザインのもとでPDCAサイクルを展開できる仕掛けを検討していきたい。	B	・グランドデザインを配付し教員の情報共有を行うことで、多くの生徒が実感できるような授業の工夫がなされている。 ・アンケート結果をふまえたPDCAサイクルを実施されている。 ・今後も授業アンケートを定期的に行い反映させていただきたい。		
		14 教育課程やカリキュラムの検討	学校教育目標を達成するための効果的な教育課程やカリキュラムについて検討する。	令和4年度実施教育課程について、学校教育目標を達成するという目標を共有した上で、教育課程を編成することができた。	令和4年度実施教育課程について、学校教育目標を達成するという目標をおおむね共有した上で、教育課程を編成することができた。	令和4年度実施教育課程について、学校教育目標を達成するという目標をおおむね共有した上で、教育課程を編成することができた。	令和4年度実施教育課程について、学校教育目標を達成するという目標をおおむね共有した上で、教育課程を編成することができた。	令和4年度実施教育課程について、学校教育目標を達成するという目標をおおむね共有した上で、教育課程を編成することができた。	令和4年度実施教育課程について、学校教育目標を達成するという目標をおおむね共有した上で、教育課程を編成することができなかった。	C	教務	教育課程編成の議論に教育目標の実現という視点はなく、受験のために必要な教育課程についての議論にとどまった。昨年度からの劇的な改善はないが、新しいグランドデザインを策定するなかで、本校が目指す方向性やビジョンの検討はある程度できたのではないかと判断し、C評価とした。	B	・グランドデザインはゴールとなる目標になるもの。それを共有した後は、実現のための手段や方法を話し合い共有することが重要。今後の展開に期待。
		新教育課程となる令和4年度入学生教育課程について検討する。	令和4年度入学生教育課程について、新学習指導要領が目指す教育の内容をよく共有し、全職員で教育課程について検討することができた。	令和4年度入学生教育課程について、新学習指導要領が目指す教育の内容をおおむね共有し、全職員で教育課程について検討することができた。	令和4年度入学生教育課程について、新学習指導要領が目指す教育の内容をおおむね共有し、全職員で教育課程について検討することができた。	令和4年度入学生教育課程について、新学習指導要領が目指す教育の内容をおおむね共有し、全職員で教育課程について検討することができなかった。	令和4年度入学生教育課程について、一部の教員でしか検討することができなかった。	令和4年度入学生教育課程について、一部の教員でしか検討することができなかった。	C	教務	「新学習指導要領が目指す教育」「これからの時代に求められている教育」を土台とした検討はできず、現行教育課程編成とさほど変わらない状況であった。良くも悪くも「これまで通り」である。編成過程については各教科の意見を吸い上げながら調整できた。一方で、新しいグランドデザインの策定や個別評価についての取組といったなかで、徐々にではあるが「新学習指導要領が目指す教育」「これからの時代に求められている教育」といった視点を持てるようになってきているようにも感じる。	C	・新教育課程の検討が不十分であったため、現行教育課程とさほど変わらない状況であったことは今後の課題としてもらいたい。	
課題学習	人間創造コース	15 人権教育への取り組み	人権HRを活性化して生徒の人権意識を高める指導を推進する。また、最近注目されるようになった人権課題についても、人権HRを通して認識を深める。	人権HRが充実してかなり多くの生徒の人権意識が高まることにも、人権問題に対する関心も高くなった。	人権HRが充実して多くの生徒の人権意識が高まることにも、人権問題に対する関心も高くなった。	人権HRが充実して五割程度の生徒の人権意識が高まることにも、人権問題に対する関心も高くなった。	人権HRが充実して生徒の人権意識が高まることまで至っておらず、人権問題に対する関心も高くはならなかった。	B	人権	各学年と連携し、ほぼ年間計画にそって進めることができた。1学年は車椅子・アイマスク体験を実施し、障がいをもつ人の気持ちに寄り添う時間を生徒に持たせることができた。加西市とも連携をとり人権教育を推進していきたい。	B	・車椅子・アイマスク体験を行うなど、知識だけでなく経験を通しての人権意識の醸成を図っている。 ・講師を呼んだ講演会等、家庭では教えられないことを教えてもらえれば嬉しい。		
		16 人間創造コースの充実	人間創造コースの特色ある取組を通して、体験活動を充実させるとともに、主体的に課題解決に取り組む姿勢を身につけさせる。また、地域に根ざした活動を通して、生徒にふるさとを愛する気持ちを育み、ふるさと貢献活動を積極的に行う。加えて、人間創造コースの魅力・特色を充実させる教育内容を取り入れ、生徒が活動を通して、人間力や、コミュニケーション能力、グローバル時代を生きるための英語力を向上させられるような取り組みを行う。	特別非常勤講師などを積極的に活用し、特色ある取組を実施し、体験活動も非常に充実させることができた。また、探究活動を通じて、地域に根ざしたボランティア活動等にも積極的に継続して取り組むことができた。加えて、キャリアガイダンスを年に2回行うことで、生徒の自己肯定感を高め、将来を前向きに考えるきっかけを与えられた。英語力が向上し、英検GTEC等の点数も向上した。	特別非常勤講師などを活用した特色ある取組を実施し、体験活動も実施された。また、地域に根ざした活動にも複数回生徒が参加した。英語力は前回より少しアップした。	特別非常勤講師などを活用した特色ある授業を1回は実施できた。また、地域に根ざした活動も1回程度は行うことができた。英語力は前回同様スコアを維持できた。	特別非常勤講師の活用ができず、人間創造コースの特色を活かす授業等を実施できなかった。また、地域に根ざした活動も行うことが出来なかった。英語力も検定合格等の数字が伸びず、英検合格者数も減少した。	A	コース委員会	新型コロナ感染拡大のため、活動等の制約が続いたが、JAXA東京研修等は実施できたものも増えた。ローカルな活動の充実を注力し、昨年から旅行会社・市と連携し生徒が市内観光ガイドを企画・運営する「まるっと加西わくわく冒険ツアー」を行っている。他にも、加西のお土産企画第3弾を考案し、地元特産品を使った土産スイーツを考案する活動を行った。また、読み聞かせ班は市立図書館で幼児に向けて自作のパペットで人形劇を行った。オーストラリア訪問は今年も叶わなかったが、市内の国際交流施設「ねひめカレッジ」との交流により、加西在住の外国人をゲストと呼び、「世界の扉 in 北条高校」を3年実施した。日本語教室の相手ボランティアにも参加し、異文化交流の機会と加西在住外国人支援にも積極的に関わることができた。コースの活動は地元加西市において、大きな役割を果たし、彼らの存在、働きぶりが必要不可欠なものになってきている。今後も生徒のスキルアップを目指し、学びの機会を確保して行きたい。また、オンラインによるキャリアガイダンスも、昨年より卒業生の参加が定着し、進路決定した3年生も参加するなど、実りある話し合いの機会を持つことができた。コース5期生の活動は探究報告「学びの軌跡 vol.5」にまとめた。来年度5月予定の6期生による「探究活動発表会」にむけて、今後も益々活発な活動を展開し、地域に若い力を役立てたい。	A	・コロナ禍ではやりたくても制限が多かったことと思われるが、今年度はコースの特色を出すことができていると感じる。今後にも期待。 ・探究活動を通じて生徒が自ら主体的に学ぶ姿勢を身につけ、地域に根ざした関係性づくりや地域の課題解決に寄与する活動をしている。 ・社内にも通用する人材育成に励んでほしい。今後も体験学習を積極的に行い、特色ある取組を更にパワーアップしてほしい。		
		17 国際交流事業の推進	交流事業を組織的に推進し、国際理解を深め、広い視野を持った生徒を育てる。コロナ禍のため、令和2年度に行ったオンラインを活用した国際交流の取組をさらに推進する。また、学校行事の中で、国際交流事業の成果を全校生徒に還元していく。	タイ王国、オーストラリアとの国際交流を行なうことを全校生徒を対象とした成果発表会を実施し還元した。タイ王国、オーストラリアの生徒の受け入れにおいて、全校生との交流活動が十分にできた。	タイ王国、オーストラリアとの国際交流を積極的に進めたが、全校生徒に対する成果の還元ができていなかった。	タイ王国、オーストラリアとの国際交流を積極的に進めたが、全校生徒に対する成果の還元ができていなかった。	タイ王国、オーストラリアとの国際交流を前年以上に積極的に進めたが、全校生徒に対する成果の還元が不十分であった。	C	国際交流	今年度は、スワンクリスチャンカレッジとのオンラインでの国際交流をすることができた。北条高校が手作りでカクタを事前に送り、それを使ったオンラインによるカクタ大会を行った。カクタは、スワンクリスチャンカレッジの生徒に大変好評で、日本語学習に役立っている。また、お互いに自己紹介をしたり、オーストラリアのアボリジニーに関する物語を聞いたり、こちらから日本の昔話を英語でしたりと、交流活動ができた。一部の授業でのオンライン国際交流であったため、全校生徒に還元できていないのが反省点である。スワンクリスチャンカレッジの日本語学習者も減少しており、相互交流の仕方を工夫する必要がある。	B	・全校生徒への還元には課題があったことだが、国際交流事業自体は大変工夫して実施されている。参加生徒が獲得した国際意識や感覚が全校に伝播すると良い。 ・リアルな交流ができない中、オンラインで海外の高校生とカクタ大会を行うなど、可能な範囲での国際交流を実施している。		